

授業科目名	地域イノベーション実習	担当教員	瓶内 栄作 小畠 克典 千賀 喜史 小島 寛大 夏 世明 辻村 謙一	
必修の区分	選択			
単位数	2 単位			
授業の方法	実習			
開講年次	3年 第2クオーター			
講義内容	<p>Schumpeter. J. A の定義によると、イノベーションとは経済活動の中で生産手段や資源、労働力などをこれまでとは異なる仕方で新結合することを指す。そのなかでも日本企業におけるイノベーションは経営革新と称される。この実習では、地域にある中小企業のイノベーションの実践について、自ら体験しながら学習する。</p> <p>イノベーションを実現した企業に出向き、経営者や社員の皆さんの体験談を聞き、企業の組織風土や、イノベーションに至る課題の発掘方法、イノベーションが創出できた理由やその成立プロセスなどについて、自らも企業の中で行動することによって学ぶ。</p> <p>指示に基づきながらも、自らができるを考え、主体的に行動することによって、最終的には取組内容について、独自の考察を加えたレポートを作成し、実習先に対してプレゼンテーションを実施する。</p>			
到達目標	<p>課題をイノベーションに転換するプロセスについて、理解することができる。</p> <p>実習先におけるイノベーションの取組や現実的課題について、理解することができる。</p> <p>必要あれば事業に関する調査・分析を実施し、改善提案等の企画立案ができる。</p> <p>実習先経営者や社員、その関与先との円滑なコミュニケーションを実践できる。</p> <p>自らの体験に基づき、独自の考察を加えたレポートを作成できる。</p> <p>レポートについて、実習先経営者や社員を交えプレゼンテーションを実施できる。</p>			
授業計画	<p>本実習は 5 日間×2 週を現地での実習期間としている。限られた期間での実習であるため、事前準備をして、効率的な行動が求められる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学内でのオリエンテーション 2. 現地訪問 1 日目 現地でのブリーフィング、見学 3. 現地訪問 2 日目 イノベーションの背景となった課題についての学習 4. 現地訪問 3 日目 イノベーションの実践現場視察 5. 現地訪問 4 日目 イノベーションの取組についての実践 6. 現地訪問 5 日目 1～4 日目の振り返り 7. 現地訪問 6 日目 課題をイノベーションに転換するプロセスについての 			

	学習 8. 現地訪問 7日目 自らの考察について経営者や社員との意見交換 9. 現地訪問 8日目 レポート資料作成(基本構想) 10. 現地訪問 9日目 レポート資料作成(資料完成) 11. 現地訪問 10日目 プレゼンテーション資料作成 12. 学内での学習成果発表(プレゼンテーション実施)
事前・事後 学習	特になし
テキスト	特になし
参考文献	『イシューからはじめよ』、安宅和人、英治出版、2010年 『問題解決』、高田 貴久・岩澤 智之、英治出版、2014年 『ロジカル・プレゼンテーション』、高田貴久、英治出版、2004年
成績評価 の 基 準	実習の態度(30%)、レポート(50%)、プレゼンテーション(20%)により評価する。
履修上の注意 履修要件	地域イノベーション論を履修済みであることが望ましい。 実習先の皆様は日常業務に大変忙しい中、皆さんの学びの場を提供するためにご協力いただいている。礼節をもって接し、失礼がないように心がけること。
実践的教育	学外の臨地実務実習先の実習指導者から、実践的な指導を受けながら実習をすることから、実践的教育に該当する。
備考欄	